

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-68

学校名・団体名	あま市立甚目寺小学校
HPアドレス	http://www.city.ama.ed.jp/sho_jimokuji/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさと甚目寺 ～かかわる つたえる つながる～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>学区である甚目寺のまちを教材にして、人や物や事とつながる活動を行っている。この活動を通して、ふるさととしての甚目寺を愛する心を育て、どのように甚目寺をよくしていくのか考え、行動する活動を通して、子どもたちに持続可能な社会の担い手となるための必要な能力や態度を養うことがねらいである。</p>	

<活動・研究報告>

1. 活動内容

- (1) 対象者 全校児童(644名)
- (2) 教科 生活科および総合的な学習の時間を中心とした関連教科・領域
- (3) 活動の特色
本年度各学年が取り組んだE S Dの活動テーマである。
1年 みんな なかよし！(幼稚園や保育園、地域のおとしよりの交流)
2年 この町大すき！(地域の商店街との交流)
3年 人にやさしい町づくり(デイサービスセンターとの交流、福祉に関する体験活動)
4年 環境にやさしい町づくり(地域の環境から地球の環境問題を考え、改善を進める活動)
5年 ふるさと甚目寺 われら産業調査隊(地域の産業を調査し、地域の産業を応援する活動)
6年 ふるさと甚目寺 われら歴史・文化調査隊(地域の歴史・文化を調べ、地域の方に発信し、伝統行事を応援する活動)

2. 助成金関連の活動報告

月	活 動 報 告	活 動 写 真
6	<p>6月23日(火)、6年生はハンセン病の出前授業を行った。講師として、圓周寺住職、小笠原英司先生をお招きし、ハンセン病に生涯を捧げた「小笠原登博士」のお話を聞いた。</p> <p>私たちのふるさと甚目寺にハンセン病の差別と闘った偉大な先人がいたことを知るとともに、ハンセン病患者の人々を救った小笠原登博士の生涯について児童等は想いを馳せていた。</p>	
9	<p>9月8日(火)、「甚目寺カッポレ」という甚目寺に古くから伝わる民族舞踊の指導に、愛好家の方々が来て指導していただいた。毎年運動会で3・4年生が甚目寺カッポレを踊る。甚目寺小の子は甚目寺カッポレを踊った経験をして卒業することになる。伝統を一人一人の心と体に刻むそんな活動が今年も行われた。</p>	
9	<p>9月15日(火)、6年生対象に、甚目寺に古くから伝わる「説教源氏節」を、もくもく座の方々を招き、実際に演じていただいた。「説教源氏節」は、写真の通り人形浄瑠璃である。一時期途絶えていたが、録音テープと3体の人形が発見されたことで、復活を遂げることが出来た。</p> <p>鑑賞したのは、陰陽師として有名な安倍晴明が信田(しのだ:大阪府和泉市)の森の白狐と阿倍保名(あべのやすな)との間に生まれた子であるという説話「信田妻(しのだづま)」をもとに作られた物語で、「久寿の葉 子別れの段」と「久寿の葉 子別れ信田の森の段」の二段からなる後半の段であった。</p> <p>児童等は、しばらく古典の世界のおもしろさ、不思議さに引き込まれていたようだ。</p>	 
11	<p>11月20日(金)、ふるさと甚目寺「かかわる」「つたえる」「つながる」をテーマに、総合学習発表会が開かれた。この発表会は、各学年が今まで取り組んできたことを、地域の方々に伝える場となっている。当日は保護者の方だけでなく、出前授業や取材活動などでお世話になった方々にもお越しいただき、子どもたちは張り切って発表をした。</p> <p>1年生は、「みんな なかよし」というテーマで、近くの幼稚園の年長さんたちも招いて学校生活の様子を呼びかけで発表した。第2部では秋の木の葉や実を使って、楽しいお店を開いた。</p> <p>6年生は「ふるさと甚目寺」一われら歴史・文化調査隊一をテーマに、グループごとに、甚目寺観音、萱津神社、甚目寺説教源氏節、ハンセン病と小笠原博士、鎌倉街道について詳しく調査し、学んだことをさまざまな方法で伝えた。</p>	 
11	<p>11月25日(水)、狂言師 井上松次郎さんをお迎えし、6年生に狂言についての出前授業をしていたいただいた。井上先生からは、「狂言」とはどういうものかを、実際に体験しながら教えていただいた。授業では、狂言の見方や歴史、舞うときの心などを教えていただいた。人に伝えるための工夫や心など、今の実生活に役立つ内容であった。やはり、本物を生で見るとは、テレビやビデオでは分からないことがたくさん発見でき、児童等は満足げな顔をしていた。</p>	
9	<p>9月3日(木)、5年生対象に1学期に引き続き2回目のハッピートークトレーニングが行われた。ハッピートークトレーニングとは、池崎晴美氏提唱のハッピートークアカデミーによるトレーニング方法である。自己の話し方とコーチングのエクササイズであり、今回は、自分と相手の共通点を探すゲームから始まり、自分自身の性格を見つめたり、友達の良いところを見つけたりした。児童等からは、「友達から自分の良いところを見つけてもらってうれしかった」「マイナス面をプラスにかえることが出来ることを初めて知った。これから使っていきたい」などの声がかれた。</p>	

2

2月17日(水)3回目のハッピートークトレーニングが行われた。一人一人がハピネスシートを作った。ハピネスシートとは自分が大切にしている言葉を書き記した一枚のシートであり、書く内容は、自分を元気にする言葉、感謝の言葉、自分が大切にしている言葉、社会の一員として感じている事、私ってこんな人などである。それを書いていくと、自分だけのオリジナルシートが出来上がった。

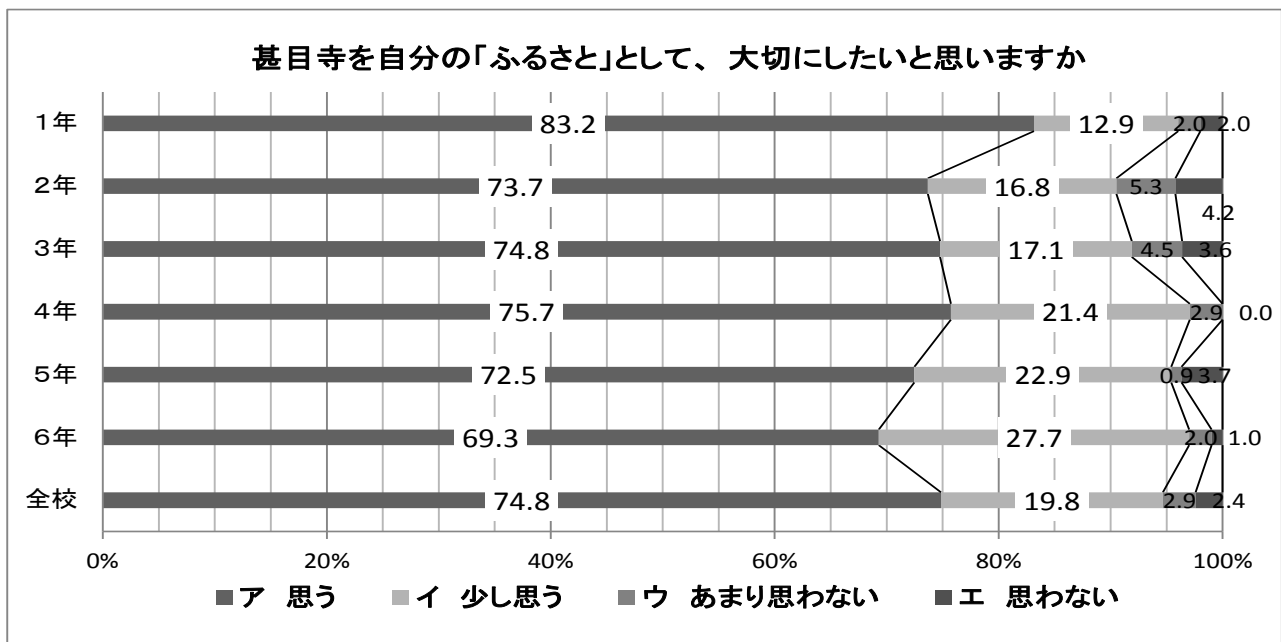
この授業を通して、児童等は、話し方一つで思考が変わる。また、行動が変わるということに気づくことができた。また、ハッピートークのよさや良い言葉をたくさん使うことで相手や自分の気持ちに大きく影響を及ぼし、よりよい人間関係を作っていくことが可能になることを学ぶ事が出来たのではないかと考える。



3 成果と課題

(1) 成果

本年度はこれまでの実践を見直し、整理し、時期ごとの取組を体系的にとらえることができた。また、一つ一つの活動を魅力的なものにするために、出前授業や外部講師の選定を慎重に行い、取捨選択をかなり行った。その中でも、助成を受けた内容については、毎年大変好評であり、児童等の満足度が高いものばかりである。こうしたよいものを行うことで、活動が活性化していった。



これは、平成28年1月に全校児童を対象にとったアンケートである。ESDの取組を始めて6年経つが、ここ数年は、当初に比べ、どの学年も10ポイント以上向上している状態が続いている。その理由として考えられるのは、やはり児童がより興味を持てるよう、主体的に活動できるよう、外部講師を呼んで、魅力ある出前授業を積極的に推進しているからであろう。

こうした取組を続けることで、自分の考えをもち、進んで地域と「かかわり」、思いや考えを「つたえよう」とし、ふるさととしてこの地域と「つながって」いこうとする子どもが育っていくと考える。

(2) 課題

小学校6年間を通してどのような子どもを育てていくかを学校全体で一体となって捉え、培った力を積み上げていけるように、系統性を持った研究に取り組んでいきたい。特にシンキングツールを使った思考力や判断力などを育てることが出来るよう授業改善を図っていきたい。

また、外部講師を呼んで出前授業を行うには、毎年10万円～20万円程度の特別予算が必要となる。これをいかに確保するのが大きな課題である。